

第2回全九州高等学校総合文化祭鹿児島大会 囲碁部門
第33回全九州高等学校囲碁選手権鹿児島大会 実施要項

- 1.主 管 鹿児島県高等学校文化連盟囲碁専門部
2.日 時 平成30年12月8日(土)～9日(日)
総合開会式12月7日(金) 13:00～14:40(開場12:00)
3.日 程 下記のとおり

第1日 12月8日(土)	第2日 12月9日(日)
9:00～9:30 受付	8:30～8:50 受付
9:30～10:00 開会式	9:00～11:55 4～5回戦(19路)
10:00～12:10 1～4回戦(9路) 昼食	11:55～12:40 表彰準備
13:20～17:40 1～3回戦(19路)	12:40～13:10 表彰式・閉会式

- 4.会 場 ラ・サール学園ヨセフホール(鹿児島市小松原2丁目10番1号)
総合開会式: 宝山ホール(鹿児島市山下町5-3)
- 5.出場資格 (1) 団体戦 男女とも各県2チームまで
(2) 個人戦 19路盤の部 男女とも各県3人まで
9路盤の部 男女とも各県2人まで
※団体戦と個人戦(19路盤の部)の重複出場はできないが、9路盤の部との重複は認める。
※女子団体戦は混成チーム出場を認めることがある。
※参加者数が不足の時は、補欠チーム、補欠選手出場を認めることがある。
- 6.競技方法 9路盤の部
対局は、オール互先・先番6目半コミだし。持ち時間は10分とし秒読みは行わない。
組合せ及び順位付けは、4回戦のスイス方式を適用する。
19路盤の部
対局は、オール互先・先番6目半コミだし。持ち時間は40分とし秒読みは行わない。
組合せ及び順位付けは、5回戦のスイス方式を適用する。
(但し、団体戦で参加チームが13チーム以下、個人戦で参加者数が13人以下の場合は、4回戦のスイス方式を適用する。)
- 7.大会参加数 男子団体戦16チーム、女子団体戦16チーム
男子個人戦(19路盤の部)24人、(9路盤の部)16人
女子個人戦(19路盤の部)24人、(9路盤の部)16人
- 8.表 彰 男女団体戦、男女個人戦(19路盤の部)とも第6位まで表彰する。
男女個人戦(9路盤の部)は第3位まで表彰する。
- 9.申し込み方法 ①各県専門委員長は、推薦書(共通様式1)を各県高文連事務局に郵送及びメールする。
②参加校は、「全部門共通参加申込書」(共通様式2)を各県高文連事務局に郵送する。
また、③参加申込書を各県囲碁専門部に提出する。
④各県囲碁専門部は、参加申込書をまとめて鹿児島大会事務局に郵送及びメールする。
提出締め切り ①: 11月5日(月) ②: 11月16日(金)
③は、各県囲碁専門部の指定期日 ④: 11月2日(金)

10.大会全般に対する問い合わせ

鹿児島県高等学校文化連盟囲碁専門部 専門委員長 狩野正一郎

〒891-0192 鹿児島県鹿児島市小松原2-10-1

ラ・サール高等学校 TEL:099-268-3121 FAX:099-268-3122

E-mail:uenos@lasalle.ed.jp

11.その他 高校1年生および2年生で、本大会成績上位者については、高等学校文化連盟全国囲碁専門部主催の「第12回全国高等学校囲碁選抜大会」へ推薦する。

ただし、個人戦(9路盤の部)と個人戦(19路盤の部)の成績上位者が重複した場合、個人戦(19路盤の部)を優先し、個人戦(9路盤の部)は繰り上げで推薦をする。

12.競技進行に関する注意事項

(1) 手合いと先手後手の決定

先手後手は「握り」で決定する。

団体戦は主将が握り白黒を決め、主将が黒の場合、副将は白、三将は黒とする。

(2) 対局時計

対局時計を用い、その置く位置は白番が決める。

時計は石を打った方の手で押さねばならない。

(3) 持ち時間

持ち時間は各40分(9路盤の部は10分)とする。秒読みはないので時間が切れると形勢にかかわらず負けになる。但し、明らかな時間切れ狙いの着手があったと審判が認めたときは、審判で勝敗を裁定することがある。

(4) スイス方式の順位決定方法

(a) 勝ち数の多い選手(チーム)を上位とする。

(b) 勝ち数が同じ場合は、対戦した相手の勝ち数の総和(以下「SOS」という)が多い選手(チーム)を上位とする。

(c) SOSが同じ場合は、対戦した相手のSOSの総和(以下「SOSOS」という)が多い選手(チーム)を上位とする

(d) 団体戦において、SOSOSが同じ場合は3名の勝ち局数の和の多いチームを上位とする。

(e) (c)及び(d)でも同順位の場合は、直接の対戦がなされていればその勝者を上位とする。それでも決定しない場合は同順位とする。

(f) 同順位の場合、全国大会への派遣は抽選とする。

(5) 反則

対局相手に以下の行為があった場合、反則勝ちとなる。該当者は時計を止め、速やかに審判長に申し出ること。但し、対局者が反則を指摘しないと反則にはならない。

(a) 対戦相手以外の助言を受けること。

(b) 禁じ手や二手連続の着手。

(c) 待った(石から手を離したら、打ち直しはできない)。

(6) 大会での取り決め事項

(a) 対戦相手の時計の押し忘れを教えないこと。

(b) 写真撮影は対局開始5分以内で行うこと。

(7) 対局マナー

以下の行為は慎み、正々堂々と対局すること。

(a) 対局者以外の者が声をかけること。

(b) 対局場での飲食（ただし、飲み物に関しては、選手の健康を配慮して、蓋のついている容器に入っているもののみ、水分の補給を認める）。

(c) 対局場内で騒がしくすること。

(8) その他

問題が生じたときは時計を止め、対局を中止し、速やかに審判員に申し出て判定を審判長に一任する。